

通告7番目、13番、市來利恵議員、発言席から一問一答方式で質問をお願いいたします。

市來利恵議員。

○市來議員 13番、市來利恵です。議長の許可を得ましたので、一問一答方式にて質問を行います。

まず初めに、根来公園墓地について。

かつては一族で代々で継承されることが多かった日本のお墓ですが、最近は亡くなった本人の希望に沿ったスタイルや、残された家族が管理しやすいお墓など、多様なニーズが現れてきています。

背景には、都市部への人口移動や少子化など、様々な社会の変化があります。また、お墓に入らない理由もそれぞれです。跡継ぎがない、お墓を守る人がいないという、物理的にお墓を継続することが不可能になったという理由、またお墓を建てるための値段や、維持するための料金が大きいという金銭的な問題もあります。そのほかにも、自分がお墓で大変な思いをしたので、子供に面倒をかけない形を選びたいというお墓に関する不満や不安から、墓じまいを選択する人もいます。従来のお墓という形が、必ずしも選ばれていないという変化が見られるのではないのでしょうか。

岩出市の根来公園墓地は、平成17年、2005年から運営が開始され、運営開始時の状況と今では、社会情勢や社会状況の変化も生まれてきていると考えます。毎年、販売目標価格が達成されず、いろいろな方法で周知や宣伝に力を入れていますが、時代の流れやお墓に対する意識の変化をつかみ、新たな方法の模索は必要かと考えます。

そこで、まず1点目、全体の区画数と販売区画数は、また墓じまいをする件数や購入を取りやめるといった件数はどれぐらいあるのか。

2点目は、公園墓地の販売には伸び悩みがあり、また市民のニーズの多様化などに対し、先進事例や研究を行うとしていたが、どうだったのか。

3点目は、樹木葬式墓所の導入についてです。今、時代に即した墓地公園の取組を進める自治体も少しずつ見られるようになってきました。阪神間では、初の宝塚市で、今年、2023年6月から市営の墓地で樹木葬式墓所の運営を行っています。お配りしている裏面を見ていただいたらいいと思うんですが、この各墓所には大型シンボルツリー型79区画、小型シンボルツリー型126区画、共同埋葬型約3,000体、ガーデン型40区画と、このような形で供用開始がされています。

供用開始後4か月となりますが、大型シンボルツリー型は79区画に対し、100名の応募があったそうです。そのほかにも合わせて146の申込みを受けています。岩出市民の方からも、樹木葬式墓所の要望、話をよくお聞きをします。この宝塚市のような墓所を根来公園墓地の一部、まだ売り出していないところもございますが、この樹木葬式墓所にできないか、取組の研究を行ってはどうかということをご提案いたしますが、市の考えをお聞かせください。

○田中議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

事業部長。

○田村事業部長 市来議員ご質問の1番目、根来公園墓地についての1点目についてお答えいたします。

根来公園墓地の全体区画数は2,044区画です。また、平成17年のオープンから令和5年8月31日までの販売済み区画数は1,259区画となっています。また、購入後に返還を受けた数は累積で116区画であります。そのうち8件については墓石を建立済みであり、区画を更地に戻した後、返還を受けております。

次に2点目と3点目について、一括してお答えいたします。

合葬墓については、過去に先進事例として、大阪府箕面市、泉佐野市、四条畷市、奈良県橿原市を訪ね、墓地の販売、管理の状況、合葬式墓所に関する設置の経緯や費用、運用などの調査研究を実施いたしました。それらを踏まえ、本市での取扱いについて検討した結果、根来公園墓地においては、いわゆる無縁墓地が発生していないことなどから、将来的に合葬墓の必要性は認められるものの、まずは残区画の早期完売を目指すこととし、新聞折り込みや地方情報誌などを活用した広報、また墓園事業所を巻き込んだ展示会や墓地の利用券をふるさと納税の返礼品とするなどの販売促進に取り組んでいます。

また、樹木葬式墓所につきましては、先ほどご答弁いたしました。残区画の早期完売を目指していることから、現時点での導入は考えていませんが、そのメリット・デメリットや市民ニーズ、そして未開放区画の有効活用策なども含めて、今後継続して研究すべき課題であると考えてございます。

○田中議長 再質問を許します。

市来利恵議員。

○市来議員 今あるお墓の区画ですね、それを販売していくんだという方向になっていると思います。今いろんな形で新聞折り込みやニュースやいろんな形での広報に取り組まれていると思いますが、買う方は買われると思うんです。しかし、お墓への意識の

変化が市民の中に生まれてきたり、お墓自身を持たないというような意識になってくる方がたくさんおられる場合は、やっぱり返還も含めて、必要になってくると思うんです。

私もよく市民に言われるのは、ちゃんとしたお墓ではなく、樹木葬式があるんで、それをやりたいとかというお声を聞くんですが、市民のお墓への意識の変化や市民からの要望、また住民の要望などは市のほうに上がってきているのか、この点1点だけお聞かせください。

最後にもう1回、先ほど言った宝塚市の樹木葬式墓所についても、ぜひしっかり研究していただきたいんですが、これについても答弁を願いたいと思います。

○田中議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

事業部長。

○田村事業部長 市来議員の再質問についてお答えいたします。

市民からの要望についてですが、これまで市政懇談会をはじめ、お墓に関する問合せにつきましては、合葬墓や樹木葬に関する意見要望を受けてございます。

それと、宝塚市への視察につきましては、今後もやっていきたいと考えてございます。

○田中議長 再々質問を許します。

(な し)

○田中議長 これで、市来利恵議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問を願います。

市来利恵議員。

○市来議員 2つ目の質問は、子育て応援のまち岩出に。

今、日本の少子化の進行は、人口減少は深刻さを増しています。少子化の進行は人口、特に生産年齢人口の減少と、高齢化を通じて労働供給の減少、将来の経済や市場規模の縮小、経済成長率の低下、地域、社会、担い手の減少、現役世代の負担の増加、行政サービスの水準の低下など、結婚しない人や子供を持たない人を含め、社会経済に多大な影響を及ぼすこととなります。時間的な猶予はありません。今こそ結婚や妊娠、出産、子育ての問題の重要性を社会全体として認識し、少子化という国民共通の困難に、国だけではなく、地方自治体も正面から立ち向かう時期に来ているのではないのでしょうか。

少子化の主な原因は、未婚化や晩婚化と有配偶出生率の低下であり、特に未婚化、晩婚化、若い世代での未婚率上昇や、初婚年齢の上昇の影響が大きいと言われてい

ます。若い世代の結婚をめぐる状況を見ると、男女ともに多くの人が、いずれ結婚することを希望しながら、適当な相手にめぐり合わない、資金が足りないなどの理由で、その希望がかなえられていない状況にあり、また一生結婚するつもりはないという未婚者の微増傾向も続いています。

子供についての考え方を見ると、未婚者、既婚者のいずれにおいても、平均して2人程度の子供を持ちたいとの希望を持っているが、子育てや教育にお金がかかり過ぎる、これ以上、育児の負担に耐えられない、仕事に差し支えるといった理由で、希望がかなわない状況もあり、また夫婦の平均理想子供数、平均予定子供数は低下傾向が続いています。

このように、少子化の背景には、経済的な不安定さや出会いの機会の減少、男女の仕事と子育ての両立の難しさ、家事、育児の負担が依然として女性に偏っている状況、子育て中の孤立感や負担感、子育てや教育にかかる費用負担の重さ、年齢や健康上の理由など、個人の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻害するような様々な要因が複雑に絡み合っています。少子化は、今この瞬間も進行し続けており、少子化への対応は遅くなればなるほど、将来への影響が大きくなってきます。早急に取り組を進めることが必要です。

岩出市においても、様々な施策、事業を進めてきているところではありますが、さらに独自の取組を進め、岩出市の子ども・子育て支援事業計画で掲げる、安心して産み育てることができる環境づくり、全ての子供が健やかに成長でき、保護者が安心して子供を育てることができるよう、母子の健康保持・増進、病気の予防や早期発見への取組に加え、緊急時や必要時に適切な医療を受けることができる小児医療体制の充実など、妊娠・出産期からの切れ目のない継続的な支援を推進すること、さらに進めていただきたいと思います。

まず1点目は、那賀病院での産科についてであります。

令和2年9月から産婦人科の医師不足により分娩が休止となり、いまだに再開はされていません。医師確保の見通しと、医師確保に向けた取組についてお聞きをいたします。

2つ目は、紀の川市では分娩のできる医療機関がないことから、産科医療施設の整備が必要と捉え、安心して子供を産み育てる環境づくりを推進するため、市内に分娩を取り扱う産婦人科医院を開設しようとする医師または医療法人に対し、開設に要する費用の一部を助成する制度を創設しました。環境を整えるための対策として、予算化することは必要だと考えます。開設を支援する制度についての市の考え

をお聞きいたします。

3つ目は、妊婦通院支援給付制度の取組についてであります。

こちら、紀の川市では、妊婦や妊娠を控えている女性が、市外で出産するときの不安や経済的負担を少しでも解消することを目的とし、安心して出産を迎えることができるよう支援するため、妊婦健診を受診する際の交通費助成として、妊婦通院支援給付金を支給しています。1回の妊娠につき3万円、期間は市内に産科医療機関ができ、出産できる医療体制が整うまでの間です。紀の川市も他市の取組を学び、この制度化をしています。

岩出市も条件は同じです。妊婦さんは市外に通院することになります。妊婦通院支援給付制度の取組を求めますが、市のお考えをお聞かせください。

そして、4つ目です。子供の医療費の無料化について、これまでも何度も何度も取り上げてきました。市民の強い願いです。国の責任、保護者の責任に転嫁することなく、無料化への一歩を踏み出すことを強く求めます。

今日は市民からいただいた声を紹介いたします。3人の子育てをしています。児童、幼児、乳児の父親です。市の子育て支援に不満があります。紀北地域では、学校給食費、子供医療費の無償のところもあります。岩出市はどちらも負担があります。同じ和歌山県民に関わらず、住んでいる場所で子育て支援に差があるのはすごく不公平、岩出市の広報を見ても、子育て支援を拡充していこうとする姿勢は感じられません。せっかく岩出市に引っ越ししてきて住んでいるのに、岩出市のことを嫌いになってしまいそうです。自分の住む地域に誇りを持てるようになりたいです。ぜひ岩出市の子育て世代のために、子育て支援策を拡充してくれるよう働きかけてください。

次は、4人の子育てをしている共働きで働くお母さんです。子供たちは、学校、保育園に通っています。集団生活では、どんなに子供たちの体調を気にかけていても、様々な病気をもらいやすくなります。子供1人風邪を引けば、兄弟に移ったりと大変です。仕事を休めば、もらえる給料も少なくなる。生活があるから、なるべく休まないように、子供たちの体調には気をつけています。それでも病気になります。保育園に通う子供が熱を出したりしても、すぐに医療機関に行くことができ、今、本当に助かっています。でも、上の子が熱を出したとき、お金が要るなど考え、様子を見てしまうんです。親として悪いママではないか。子供たちにしわ寄せをさせている。時には、虐待ではないかと考えてしまうことも。突発的に必要となる医療費は大変です。医療費の無料化、岩出市でも実施してほしい。こうしたお声、

様々にもたくさん寄せられています。

子育て世代に希望が持てるような、また若い人たちがこの岩出を選んで住んでもらえるまちにすることこそ、今必要ではないかと考えます。国に求めるものでもなく、保護者の自己責任にするわけでもなく、大阪や奈良と比べるわけでもなく、バランスの取れた施策を推進するのではなく、市長、ぜひこの子育て世代の願いに応えるため、子供医療費の無償化、中学校卒業まで、これ決断を求めたいと思います。

○田中議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○松本生活福祉部長 市来議員のご質問の「子育て応援のまち岩出に」のまず1点目と2点目について、一括してお答えします。

那賀病院の産科の医師確保につきましては、県を通して、和歌山県立医科大学に対し要望を行っていますが、なかなか難しい状況であります。

次に、産婦人科医院の開設を支援する制度についてですが、全国的にも産婦人科不足が問題となっており、このような制度に取り組む自治体があることは承知しておりますが、本市においては、現在のところ、産婦人科医院の開設を支援する事業の実施は考えておりません。

なお、岩出市、紀の川市的那賀圏域には産科がない状況にあるため、引き続き医師、看護師の確保について、県市長会を通じ、県に対し必要な対策を要望してまいります。

次に、3点目の妊婦通院支援給付制度の取組を、についてお答えします。

妊婦通院支援給付制度につきましては、自治体の独自の事業であり、那賀圏域に産科がなく、和歌山市など市外で出産することへの不安や経済的負担を解消することで安心して出産を迎えることができるよう、妊婦健診を受診する際の交通費を助成する制度であると認識しております。

本市で妊娠中に受けられる助成制度につきましては、14回の妊婦健診費の助成をはじめ、多胎妊婦への助成については、14回にプラスして5回の追加助成をし、妊婦歯科健診、初回妊娠判定受診料の助成、出産・子育て応援事業として、母子手帳交付時に5万円の経済的支援を実施しております。また、一般不妊治療費の助成、生殖補助医療先進医療費の助成も行っているところでございます。

妊婦さんへの経済的支援のほか、産前産後のサポート事業や伴走型支援、また電話相談や訪問で、妊娠、出産への不安や悩みの軽減に努めるなど、様々な支援を行っております。

現在のところは、妊婦通院支援給付制度に取り組んでいくことは考えておりませんが、妊婦さんが安心して出産を迎えられるよう、今後も必要な支援を検討してまいります。

続いて、4点目の子供医療費の無料化については、子供医療費助成制度に関する説明をこれまで議会において何度か行ってまいりましたが、段階的に無料化の対象年齢を拡充するとともに、現物給付化に取り組んできたところです。令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、医療機関への受診費用については、全額国の負担から保険適用分以外は市の負担に移行しました。令和5年度のゼロ歳から中学3年生までの子供医療費の総額については、平成28年の助成年齢対象拡大以降、受給者数が減少しているにもかかわらず、過去最高額となる見込みになっており、これは新型コロナウイルス感染症に関連する医療受診の増加が影響しているものと考えております。

このような状況の下、財源を恒久的に確保するとともに、限られた財源を効果的に活用し、持続可能な福祉施策を提供するためには、一定の対象年齢、中学生までと、負担割合、小学生の医療費の1割負担、小中学生の医療費の1割負担を維持することが必要であることから、現行制度を継続してまいります。

○田中議長 再質問を許します。

市来利恵議員。

○市来議員 那賀病院について、医師の要望しているということなのですが、当然、那賀病院でやってくれば、医師だけ確保されれば、分娩施設、そのままの施設は残ったままになっているので、十分できると思うんですね。ただ、なかなか来手がない。全国的にも医師不足が続いている。紀の川市さんも言うてたのは、担当者に聞くと、紀の川市さんも那賀病院に医師来ることというのは、一番願っていることやと言われてたんですよ。

ただ、施設も整備されているから、当然、那賀病院に来てほしいけど、那賀病院の医師確保が重要と捉えているけど、開設するための予算もつけたのは、市民の要求があるから、里帰り出産をさせてほしい、たくさんの市民の声を受けて、何とか医師の確保、産科の誘致、これができないものかと考えて予算をつけたと言っているんですよ。

岩出市の答弁を聞くと、全国的に医師が不足やっているから、本市でも考えられないと言われているのか。医師を何とか確保しようとする本気度があるのかなのかということなんですよ。全国的に医師がいないから、岩出市でこれやっても

来ませんと言うてるのと一緒。本気度というんかな。医師を確保するために、どれだけのことをこの自治体で考えられるかということが重要、そこを捉えているのかな、医師不足だから、全国で起きているから、やりませんというようにしか私には聞こえない。

やっぱり岩出市にも、もともと分娩室ありません。市民からもつくってほしいという要望もたくさんいただきました。基幹病院である那賀病院でできる。ところが、その那賀病院もなくなった。唯一あった貴志川の民間の分娩施設、そこもなくなりました。やっぱりこの少子化問題を捉えるにしても、産めるところがないと安心できないじゃないですか。産む場所が必要、そういう認識を市として持つておられるのか、その点ちょっと1回お聞きをさせていただきたいと思います。

妊婦通院支援、いろんな岩出市では施策やっていますということで、やらないということなんですけど、紀の川市は、市内に分娩するところがないから、通院は市外に通うことになっていると。市内で分娩できる施設が整うまでは、この支援をしようという考えでやっているんですよ。

岩出市は、いろんな施策やっているからやりません。そうじゃなくて、安心して産んでもらえる、産める、この岩出市ができたりすれば、岩出市を選んでもらえる。先ほど子供の医療費のときに言われたんですよね。限られた財源や少子高齢化来るから、いろいろ言われます、バランスよくというの。だから、前から全然答弁変わってへんねんけど、多くたくさん住んでくれることによって、財政って安定的に確保できますよね。

民間の企業が調べたところでは、岩出市、住みたい場所、ちょっと前まではランク上位でしたが、今現在下がってきています。選ばれる市じゃなくなっているんですよ。便利だけでも、子育て支援を考えたら、そうではないと。バランス論で言うんじゃないで、今ここでしっかりと子育てに対する熱い、温かい、そういう施策をしながら、若い人たちに来てもらい、定住してもらい、そして納税者を増やせば、財政も安定すれば、様々な施策はできるということなんです。

今ここでやらないと、ずっとずっとそのままでいったら、年齢化は低くなって、人口も減少するし、岩出市の発展するどころか衰退しかありませんよ。そしたら、ますますまた財源のこと言われて、市民のための施策できなくなるんですよ。

岩出市に誇りを持ちたい、先ほどありましたけど、やっぱりそういう若い人たちが希望を持てるような市にすることが必要だと考えます。

もう一遍、この3つに対する答弁を求めたいと思います。



○田中議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

副市長。

○佐伯副市長 市来議員の再質問にお答えします。

まず、1点目の医師確保に向けた取組についてであります。先ほども部長が答弁しておりますけども、那賀保健医療圏に産科の確立に向け、まずはやはり紀の川市も先ほどおっしゃったように、那賀病院での産科医等の医師の確保が必須、こういうことを考えております。したがって、引き続き要望してまいりたいと思っております。しかしながら、めどが立ってないというご返事はいただいておりますけど、そういうのじゃなくて、引き続き要望してまいりたいと、このように思います。

それから、産科医の開設の支援についてでありますけども、産科の医療体制の充実の子育て世代の大きな支援にもつながるものと、これ考えておりますけども、市民からの充実を求める期待の声、これも承知しております。しかしながら、医院の開設者については数億円を要する開業資金、それから、助産師や看護師の確保が必要になると聞いてます。自治体から補助金があっても、医院全体の運営面から考えますと、課題もあると伺っております。

開設を支援する制度については、他の医療機関との整合性を図る必要もありますので、また個人経営者に対する貴重な税金投入と、こういうふうなことも考えられます。市民の理解が得られるのかというふうなことも考えられますので、現在のところ市単での支援制度については考えておりませんが、市としましても、今後も妊婦健診、診査の公費助成を行うなど、様々な事業を実施することで、安心・安全な出産を迎えるよう、引き続き支援を行ってまいりたいと、このように考えています。

それから、医療費の無料化についてですけど、財源等の問題もおっしゃられてましたけども、市においては限られた財源ですので、将来的に、これを負担していくということになりますし、国のほうの考え方も徐々に変わってきている、そういう動向もあります。したがって、市のほうとしては、あらゆる世代に対してバランスの取れた福祉施策を実施していくことなど、いわゆる総合的に勘案して、現行の制度で推進していきたいと思っております。

引き続き今後も国や県に対して、一律の制度にさせていただけるような構築を要望してまいりたいと思っております。

○田中議長 再々質問を許します。

市来利恵議員。

○市来議員 市長、一律な制度と言われますけど、国に意見を求めると言いますが、

県内では岩出市だけやってない制度、地域間格差をそのままお認めになるということではないですか。地域間格差がないように国に求めると言っているけど、それを岩出市がやったからこそ言えるという問題じゃないんですか。やらないで国に求めますと言ったって、納得しませんよ、市民は。地域間格差を許す市だって、市長、それでよろしいんですか、最後に市長に答弁を求めたいと思います。

○田中議長 ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

市長。

○中芝市長 まず、市来議員に、先ほど副市長が答えてくれましたけど、那賀病院の件は、これは100%無理だということであります。というのは、医師の問題、助産師の問題、その辺がやれないと。県立医大が1つのグループをこっちへ送ってくるだけの余裕がないと言うてるから、これはもうちょっと無理。

そやけど、それはやってという、続けてやんといかんという自覚、認識は持っていますし、この場で言うてかええかどうか分からんけど、私、那賀病院の副管理者、それやってます。その辺は十分よく分かっています。そういうことです。

それから、子供医療費の無料化については、これまで市来議員から何度もご質問をいただいておりますが、議員の熱意は十分分かっておりますが、市においては、限られた財源の中で、あらゆる世代に対してバランスの取れた福祉施策を実施していくことなど、総合的に勘案し、現行の助成制度で推進してまいりたいと思います。

今後も引き続き国や県に対し、全国一律の制度の構築を要望してまいりたいと思います。

ただ、その中で世の中がかなり変わってきております。奈良県知事も維新になった。大阪府の動向もいろいろあるし、その辺を見ながら進めていきたい。和歌山県は、岩出市にとって置かれた地域性から考えて、同じではないと。ここ2年前までは、自然増で人口が伸びてきてると。議員も言われてたように、人口が減ると、財政、税金が少なくなる。一方では、医療費はじめ、社会保障費、これ増え続け、厳しい財政運営を強いられる。これは十分分かってます。

しかし、これだけやって人口が増加に移るとは考えられません。全体的な行政の中で、市の発展を求めていきたいと考えてございます。バランス、これ大事だと思います。

○田中議長 これで、市来利恵議員の2番目の質問を終わります。

以上で、市来利恵議員の一般質問を終わります。